

古代国家の地方支配と地方僧官・地方寺院

文学研究科 哲学歴史専攻 日本史学専修 博士後期課程 3 年 中納 雅司

① 研究課題

日本古代の仏教はかつて古代国家による寺院・僧尼への統制・保護を特質とする「国家仏教」と評価されてきた。

ところが僧尼令は実態として機能していなかったことが判明した。そして、「国家仏教」と対立するされた地方豪族による私的な活動としての「地方豪族層の仏教」が国家の仏教政策の影響下に独自に展開していたとされ、「国家仏教」は古代国家の仏教政策が古代仏教の中心であった歴史的特質を示す学術用語として再定義されている。

しかし、国家の仏教政策と「地方豪族層の仏教」の相互関係や古代国家の変質期にあたる 9 世紀以降の検討は十分行われていない。

② 研究内容

本研究では、中央から派遣された高僧であり、国内寺院の管理等の行政的庶務に従事した地方僧官(国師、諸国講読師)の制度展開や地方社会での多様な活動に注目する。

地方への仏教普及に寄与した地方僧官が国司による地方寺院や僧侶に対する統制（「僧俗の媒介者的役割」）を円滑化していたため（右図、*1）、地方僧官の分析は国家の仏教政策と「地方豪族層の仏教」の相互関係を考える上で恰好の素材である。また、地方僧官は 9 世紀以降活発な制度改革が行われており、9 世紀以降の両者の変質過程を考える上でも重要である。

③ 研究成果

1 国家の仏教政策と「地方仏教」の相互関係 *2

「僧俗の媒介者的役割」は実態としても機能しており、都鄙の僧俗を結び付けていた。このような仏教的なネットワークこそが、国師が「僧俗の媒介者的役割」を果たし得た社会的背景であった。

8 世紀中葉における「僧俗の媒介者的役割」の制度確立（*1）は、地方僧官が有する仏教的なネットワークを国家の仏教制度の中に位置づけた政策と評価でき、「地方豪族層の仏教」は国家の仏教政策を補完する役割を果たしたのである。

2 9世紀以降の検討 *3

8 世紀末の地方僧官制度の改革（国師を講師・読師と改称等）は 9 世紀前半頃まで継承され、その中で、政策同士の矛盾点の改善や基本路線の更なる強化が実施されていく。

しかし、9 世紀後半以降、地方僧官制度の変化（地方仏教行政における国司への権限強化・集中）が惹起され、その変化が国司を中心とした地方社会における宗教的な支配秩序形成に寄与したと考えられる。

これは、中央での僧侶育成政策と地方での仏教布教政策が乖離していく過程と位置付けられる。

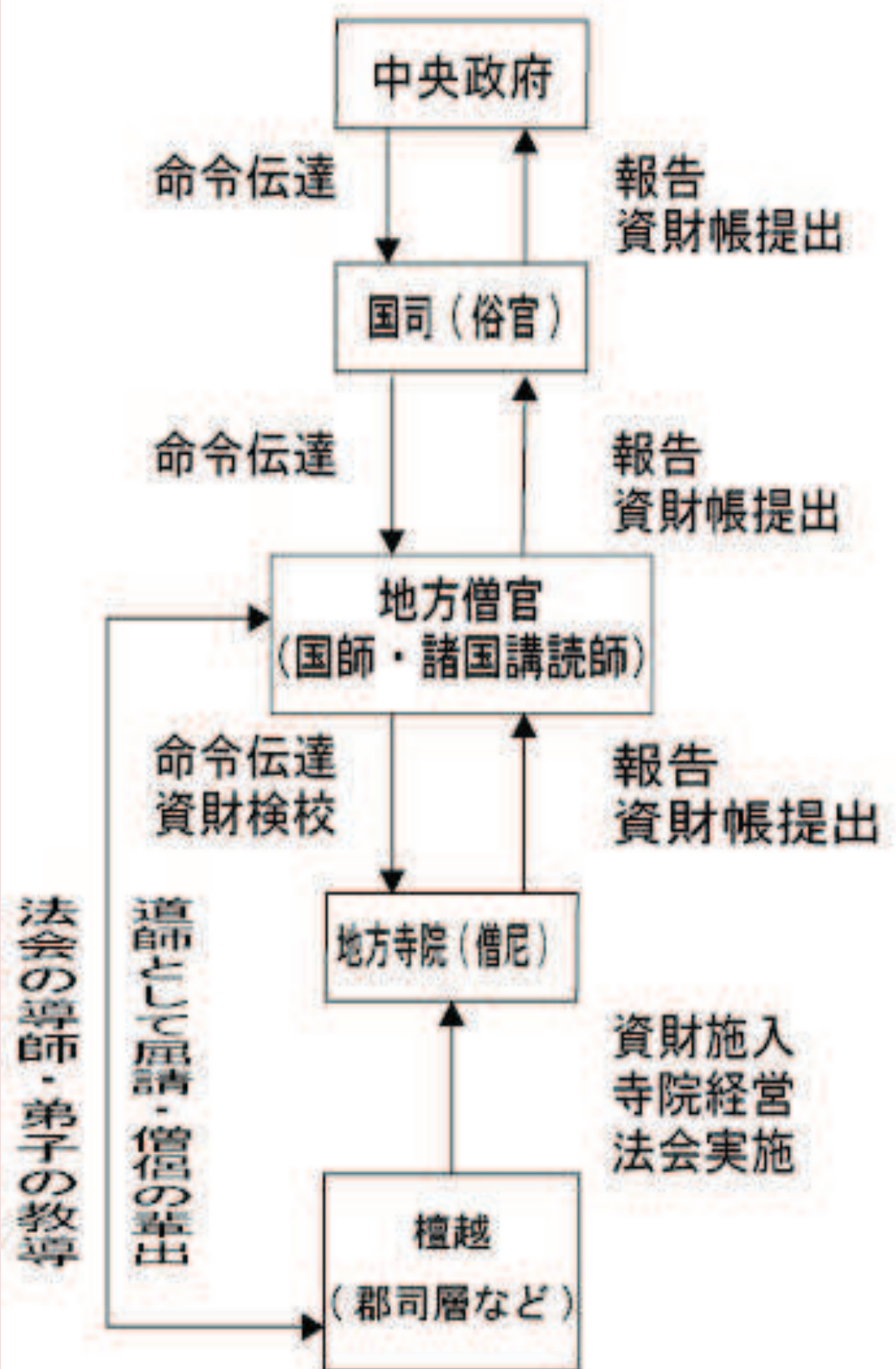


図 「僧俗の媒介者的役割」概念図

- *1 中納雅司「国師制度の成立と展開 - 奈良時代地方仏教行政についての一試論 -」（『續日本紀研究』427、2022 年、査読有）
- *2 中納雅司「国師制の実態と都鄙間交流」（『日本歴史』919、2024 年、査読有）
- *3 中納雅司「天長・承和期における地方僧官制度の展開」（『續日本紀研究』437、2024 年、査読有）